

全国学力・学習状況調査 東浦町の調査結果について

令和3年度全国学力・学習状況調査 東浦町の調査結果について

令和3年5月27日（木）に実施された全国学力・学習状況調査について、東浦町の調査結果の概要、及び調査結果を踏まえた改善策をお知らせします。

1. これまでの経過

5月27日（木）	令和3年度 全国学力・学習状況調査の実施
9月6日（月）～	個人結果の配布
9月6日（月）	町内各小中学校にて調査結果の分析と改善策検討
11月29日（月）	定例教育委員会にて調査結果を踏まえた改善策検討
12月	調査結果の町HP掲載

2. 全国学力・学習状況調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

3. 東浦町対象児童生徒数

- 小学校第6学年児童 474名
- 中学校第3学年生徒 415名

4. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

それぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題

- (ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- (イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

5. 教科に関する調査の結果

○小学校では以下のような結果が見られた。

【国語】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

【算数】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

○中学校では以下のような結果が見られた。

【国語】愛知県及び全国の平均正答率とほぼ同じ結果が見られた。

【数学】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや高い結果が見られた。

本町での(※)よい傾向や課題、結果、及び問題(一例)については以下のとおりです。

(※):全国平均正答率を5%以上、上回るもの(○)と下回るもの(●)

(1)小学校

○国語

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」に特に課題が見られました。「話すこと」については全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。

●「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題(一例)

- ・文章中の下線部を漢字を使って書き直す。(ころがっている、つみ重ね)
- ・文の中における主語と述語の関係を捉える。
(「残されています」の主語として適切なものを選択する)
- ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。
(「すぐに」が詳しくしている言葉として適切なものを選択する)

●「書くこと」に関する問題(一例)

- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
(西田さんの話を用いて詳しく書き直す)

●「読むこと」に関する問題(一例)

- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。
(資料を読み、面ファスナーについて必要な情報を引用し、まとめて書く)
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。
(資料を読み、面ファスナーの使用についてまとめて書く)

○算数

「測定」に特に課題が見られました。「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」については、全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。

●「測定」に関する問題(一例)

- ・二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。

●「測定」に関する問題(一例)

- ・条件に合う時刻を求めることができる。(午後1時35分から50分後の時刻を書く)

●「数と計算」に関する問題(一例)

- ・小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。
(30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く)

●「図形」に関する問題(一例)

- ・複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成のしかたを捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。
(直角三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く)

●「データの活用」に関する問題(一例)

- ・データを二次元の表に分類整理することができる。
(114が二次元の表のどこに入るかを選ぶ)
- ・帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴を持った項目とその割合を記述できる。
(帯グラフから、割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く)

(2)中学校

○国語

「読むこと」については、全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。その他の領域においては、全国の平均正答率よりやや高い結果が見られました。

●「読むこと」に関する問題(一例)

- ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。
(「我が輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く)

○数学

全ての領域において、全国の平均正答率よりやや高い結果が見られました。

○「数と式」に関する問題(一例)

- ・整式の加法と減法の計算ができる。 ($(5x+6y)-(3x-2y)$ を計算する)

○「数と式」に関する問題(一例)

- ・具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。
(数量の関係を一元一次方程式で表す)

○「資料の活用」に関する問題(一例)

- ・与えられたデータから中央値を求めることができる。
(反復横とびの記録の中央値を求める)

6. 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

学習状況(学習意欲・学習方法・学習環境等)について、全国及び愛知県と比較してよい傾向や改善を図りたい項目は以下のとおりです。

(1)よい傾向

- 朝食を毎日食べていた割合が高い。(小学校)
- 自分にはよいところがあると思っている割合が高い。(中学校)
- 前年度受けた授業で、コンピュータなどのICT器機を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために使用する割合が高い。(中学校)
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている割合が高い。(中学校)

- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる割合が高い。(中学校)
- 英語の勉強が好きな割合が高い。(小学校)

(2)改善を図りたい項目

- 毎日、同じぐらいの時間に起きたり寝たりする割合が低い。(小学校・中学校)
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている割合が低い。(小学校・中学校)
- 普段(月曜日から金曜日)、1日当たり、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が4時間以上の割合が高い。(小学校・中学校)
- 自分にはよいところがあると思っている割合が低い。(小学校)
- 将来の夢や目標を持っている割合が低い。(小学校)
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している割合が低い。(中学校)
- 学校に行くのは楽しいと思っている割合が低い。(中学校)
- 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができている割合が低い。(小学校・中学校)
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている割合が低い。(小学校)
- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている割合が低い。(小学校・中学校)
- 学校の授業時間以外に、1日当たりの勉強時間が1時間未満の割合が高い。(学習塾や家庭教師を含む)(小学校・中学校)
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える割合が低い。(小学校・中学校)
- 各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したり活動を行っていたりする割合が低い。(小学校・中学校)
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている割合が低い。(小学校)
- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めたり、自分が努力すべきことを決めたりして取り組んでいる割合が低い。(小学校・中学校)
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる割合が低い。(小学校・中学校)
- 国語の勉強が好きであったり、国語の授業の内容がよく分かっていたりする割合が低い。(小学校・中学校)
- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている、自分の考えをそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている割合が低い。(小学校・中学校)
- 算数の勉強が好きな割合が低い。(小学校・中学校)
- 数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う割合が低い。(中学校)
- 英語の勉強が好きな割合が低い。(中学校)
- 英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができている割合が低い。(中学校)
- 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じていた割合が高い。(中学校)
- 休校していた期間中、規則正しい生活を送っていたり、計画的に学習を続けることができたりした割合が低い。(小学校・中学校)

7. 調査結果を踏まえた改善策

以上の調査結果を踏まえ、東浦町教育委員会では以下の取組を推進します。

(1) 学習意欲の向上、学習習慣の定着を図るために、授業改善を進めます。

<具体的な取組>

- ・校内外での職員研修を通して、「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現に向けて共通理解を図り、学習への達成感、満足感を得ることができる授業づくりを進めます。
- ・教育活動全体を通して自分の考えを明確にし、それを基にした話し合い・伝え合いの時間を取り入れ、考えを深めたり、広げたりすることができるような授業づくりを進めます。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく実施できる授業づくりを進めます。

(2) 学校、家庭、地域が連携し、望ましい生活習慣や学習習慣の定着を図る取組を進めます。

<具体的な取組>

- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について連携し、望ましい使用の仕方となるよう情報モラル教室等を利用し、啓発をしていきます。
- ・「家庭での会話」時間づくりや「学習」時間づくりを進めるなど、児童生徒が家庭においても主体的に自らの生活習慣や学習について見直すよう、啓発をしていきます。
- ・ボランティア活動などに参加し、地域との連携を深めることを通して、自らの生き方について深く考えるよう、啓発をしていきます。